

Q25 校外学習(遠足等)における配慮

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

乗り物が大好きなAさんは、校外学習でバスに乗っている間はとても楽しそうでした。しかし、目的地に着いてからは、自分の興味や関心で動き回ることが多く、おみやげの売店では、レジに並んで待つことができませんでした。

自閉症の子どもは、遠足だから集団でのルールを守って行動しようと考えより、自分の興味や関心を最優先にして行動する場合があります。また、おみやげなどを買うために並んで待つというルールを守ることが苦手です。場所や状況に応じて臨機応変に行動することが難しいのです。

〈このような場合の支援 1〉

小学校4年生の知的障害を伴う自閉症男児。社会の校外学習で、学校の近隣の水道事務所に歩いて見学に行く時、歩く速度が遅かったり、列から離れて歩いたりして、目的地に着くまでに支援が必要でした。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 可能なら教師と手をつないで列の一番先頭を歩く。
- ② 手をつなぐのを嫌がる場合は、教師が手を出して本人につかませるようにしてみるとうまくいく場合がある。
- ③ 列から離れようとする場合は、その都度「水道事務所の人が待っているから早く歩こうね」などと促すようにする。

〈このような場合の支援 2〉

高機能自閉症と診断された2年生の男児。遠足でパン作りの体験教室の説明を受けている時、作ったパンの試食が気になり、「パンはいつ食べますか」と繰り返し話し始めました。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ④ 「作ったパンを早く食べたい」という気持ちを受け入れて、だから頑張ってパン作りをするよう動機付けを高める。
- ⑤ グループ全体への話では理解しにくいので、後で個別にパン作りについて話をする。
- ⑥ 時計が見やすい場所に座り、〇時〇分まではパン作りをすることを伝える。
- ⑦ パン作りに参加できていることを誉める。
- ⑧ 繰り返しの言葉にはいつもと違う環境の中にいる不安があることを理解し、可能な限り教師はとなりに座り、安心できるように励ましながら同じ活動をさせる。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子